

2024 年度 日本インターンシップ学会 東日本支部 第3回研究会報告

報告者 松坂暢浩（東日本支部支部長）

2025 年 6 月 14 日（土）、第3回研究会をハイフレックス形式（対面およびオンライン併用）にて開催いたしました。今回は「大学・学生とインターンシップ受入先をつなぐ中間支援組織の取組」をテーマに、全国の大学教職員、企業関係者、NPO 法人の皆様など、計 21 名にご参加いただきました。

第3回研究会では、東海地域において中間支援組織として活躍されている NPO 法人 G-net の木村様をお招きし、「東海ヒトシゴト図鑑」をはじめとする複数大学との連携事例についてご発表いただきました。

「東海ヒトシゴト図鑑」は、G-net が運営するウェブプラットフォームであり、知名度や企業規模にとらわれず、独自の選定基準（事業の挑戦性、組織の柔軟性、人の魅力）に基づいて、“挑戦したくなる仕事”や“応援したい企業”のみを紹介しています。

その活用事例として、岐阜大学社会システム経営学環の1年生が「東海ヒトシゴト図鑑 学生編集部」として企業を取材し、記事を作成する「企業取材プログラム」が紹介されました。この取り組みは、学生にとってはキャリア観の醸成や地域企業への理解促進につながり、企業にとっても学生の視点から自社の魅力を再発見する機会となっており、双方にとって Win-Win の関係が築かれている点が印象的でした。

さらに、同様の取材型プログラムとして、1 週間で複数の企業を取材する「シゴトリップ」や、「複数大学合同越境フィールドワーク」などの事例もご紹介いただきました。

発表後の質疑応答では、学生の資質の変化、参加学生の募集方法、プログラム継続の工夫などについて活発な意見交換が行われました。最後に今永副支部長より総括をいただき、盛会のうちに研究会を終えることができました。

改めて、これまでの計3回実施した研究会を通じて、地域で活躍する中間支援組織の皆様から多くの示唆を得ることができました。限られた企業との接点しか持てない大学や学生に対し、広範なネットワークと多様なプログラムを通じて効果的につなぐ中間支援組織の存在が、地域にとっていかに重要であるかを強く実感いたしました。

